

童夢ドッジボール大会 大会規定

第1章 総則

本規定は特定非営利活動法人 童夢主催ドッジボール大会において、大会の円滑な運営をするために適用される。

第2章 コートとエリア

平坦な場所に設置する。※屋内が望ましい。

縦 16m横 8mの正方形のコートを真ん中で等分し、それぞれのコートを自陣、内野エリアとする。

内野エリア（以下内野）の周りには 2m 幅の外野エリア（以下外野）を設ける。センターラインの交差する両外野エリア内に 3m×2m の審判エリアを設ける。ラインの幅は 5 cm～7 cmとし、安全な材質で床材とは明らかに違う色のものを使用する。

※1 コート図を参照

第3章 試合球

大会に使用するボールはモルテン社製ライトドッジボール低学年用 1 号球とする。ボールの重さは 200g から 220g とする。外周は添付のメジャーを利用する。大会主催者が準備する。

第4章 人数

幼児 12 名、小学生 10 名（高学年は 8 名）を基準とするが、15 名を限度として当該試合に出場することができる。（エントリー完了者に限る）

試合開始時に幼児 9 名以下、小学生 7 名以下の場合は大会及び当該試合に出場することができない。

ただし、試合開始後に怪我等の不測の事態が生じて最低人数を下回った場合（2 名までを限度とする）は特例としてそのまま試合を続行する。

第5章 得点

試合ごとの得点は外野の人数がそのまま試合の得点となる。

ただし時間内に相手選手を全滅させた場合の勝利チームの得点は幼児 12 点、小学生 10 点とする。

リーグ戦を経て、更に決勝トーナメントがある場合はブロックごとに①勝利数、（勝 3 点、引分 1 点、負 0 点）②総得点数、③総失点数により進出チームを決する。決しない場合は当該チーム同士の直接対決結果や抽選により決する。

第6章 エントリー

大会へのエントリー人数は、幼児 10 名以上 15 名以下、小学生 8 名以上 15 名以下とし、大会 7 日前までに必着のメンバー表提出によりエントリーを完了する。エントリー締切日以降のメンバー変更は不可とする。

第7章 試合時間

1 試合の時間は原則 6 分のランニングタイムとする。
試合開始時間に遅れた場合は失格となる場合があります。
大会プログラムで事前の集合時間や試合開始時間をご確認ください。
※試合時間は大会毎、また予選、決勝と変更することができる。

第8章 勝敗

試合終了時点において、外野にいる人数の少ないチームを勝ちとする。
相手チームの外野人数が勝利チームの得点となります。同点の場合は引分け。
決勝トーナメントに限り、同点の場合は V ヒット方式 (※3) の延長戦を行います。
※3 V ヒット方式：ジャンプボールによる延長戦の開始後に先に相手にボールを当てたチームの勝ちとする方式で決する。

第9章 外野について

試合開始時には外野に選手 (1 名以上 3 名以内) がいなければならない。
外野の選手は相手チームの内野選手にボールを当てなければ自陣内野エリアに戻ることができない (初めから外野の選手も同様) が、戻らない選択もできる。
外野選手がいなくなり、ボールが内野エリア外へ出た場合は最後にボールを触ったチームとは反対チームの内野選手からリスタートとする。

第10章 試合開始

試合開始はコートを中心を挟んで両チームの選手によるジャンプボールで開始する。ただし、ジャンパーはボールをキャッチすることはできない。また相手ジャンパーへの攻撃はできない。
ジャンパーにボールが当たった場合はセーフとするが、ジャンパーが投げられたボールをキャッチした場合はそのまま進行する。
ジャンプボールの際、ボールに手が触れず地面にボールが落下した場合は再度ジャンプボールを行う。

第11章 アウトとセーフ

相手のノーバウンドの投球が体の一部 (頭髪や鉢巻、サポーター、ビブスなどの服装も体の一部とみなします) に当たった場合や取れなかった場合はアウトになります。1 回の投球で 2 名以上に当たった場合は、最初に当たった 1 名のみアウトになります。当たったボールを、他の味方選手がノーバウンドでキャッチした場合や相手が投球した時にファールがあった場合は、ボールの当たった選手はセーフとします。

第12章 リスタート

ボールが外野エリア外へ出た場合、外野選手からのリスタートとする。
その際はボールがエリア外へ出た地点から外野エリアに入り、再び投球する。
また幼児の部に限り外野エリア内でボールを頭上に掲げ (ボールアップ) 審判の笛の合図でリスタートする。

第13章 監督者について

各チームは引率件監督者として成人2名（幼児の場合は4名以内）を決めて監督証（当日渡し）を携帯する。試合の際は監督者のみ、コート外に設置されたコーチングエリア内において、試合の戦術的な助言ができる。

※監督者の事前登録は不要です。相手選手への罵声や誹謗中傷は禁止します。

第14章 服装について

出場選手は明らかに相手チームの選手と違う同色の上着で統一することが望ましい。鉢巻やサポーターの装着は、主審が安全と認めれば可とする。

※2 ビブス等（主催者が準備）の着用は可。

第15章 反則となる行為

【オーバーライン】

ボールを投げる時や投げ終わった後の1歩がラインを跨ぎ越した場合は相手チームの内野選手ボールからのリスタートとなる。

ボールをキャッチする際にラインを跨ぎ越した場合は、相手チームの内野・または外野選手からのリスタートとなる。

選手の体全体がコート外へ出た場合は当たりと見做される（※4）場合もある。

※4 ボールを避ける動作があった場合に限る。

【遅延行為】

概ね5秒以上のボール保持は遅延行為として相手チームの内野選手からのリスタートとなる。

同じチーム選手同士のボール奪い合いや譲り合いの場合も同じとする。

【ボールの搔き入れ】

相手コート内（内野・外野とも）のボールを自陣へ搔き入れてはいけません。相手ボールとなります。（ライン上にある場合、空中にある場合は除く）

【外野および内野への移動】

ボールが当たり外野および内野へ移動する際は、必ず審判員エリア内の審判員の後方を通過すること。

実行されていない場合は審判員が口頭で注意しやり直しを命じる。

【選手間のパスについて】

内野選手同士および外野選手同士のラインを跨がないパスは禁止とし、違反した場合は相手内野選手からのリスタートとします。

【外野選手の移動について】

外野選手が外野エリア内において、ボールを持ったまま辺ごとの移動は禁止とし、相手内野エリアからのリスタートとする。

○試合の勝敗や次の大会に出場停止となる重大な反則行為

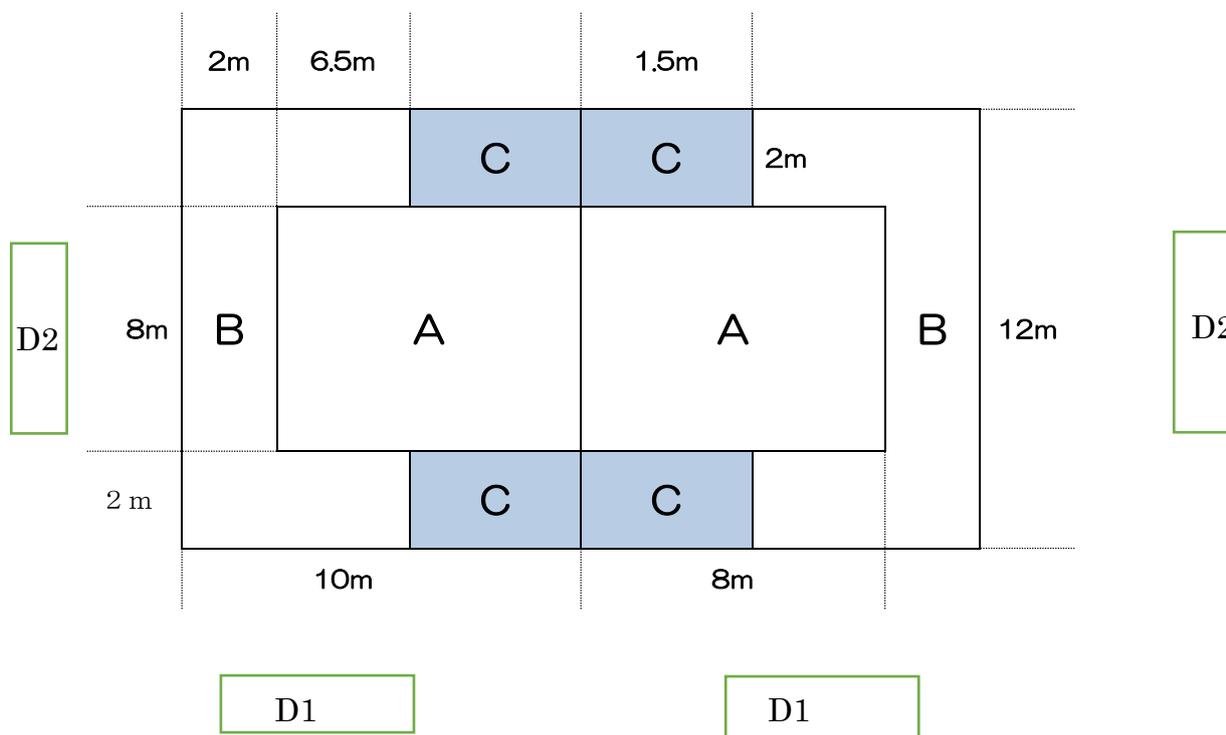
- ① 未エントリー選手が試合に出場をした時
発覚した時点で当該選手に直ちに退場を命じ、没収試合として全滅時と同じ扱いをします。

- ② 出場選手や登録選手の年令、学年の詐称が発覚した時
発覚した時点で当該選手に直ちに退場を命じ、没収試合として全滅時と同じ扱いをします。
- ③ 罵声、誹謗中傷および審判員や関係者への執拗な異議申立て
選手に限らず対象とする。また映像等による判定についての異議申し立ても含む。特に執拗な行為に関しては退席処分とします。
- ④ 大会運営の妨害行為が認められた場合
大会の運営に支障をきたす行為すべて。発覚した場合即時退場を命じます。

附則

- ① 表彰については大会毎に参加チーム数を考慮して決定するが、原則として8チーム以上の場合、優勝、準優勝、3位のチームにトロフィーと賞状およびエントリー選手全員に個人用メダルを授与、4位のチームには賞状のみを授与する。
- ② 本規定は平成29年2月1日より施行する。
- ③ 本規定変更の際は大会当日7日前までにホームページ上で告知する。
- ④ 平成29年2月24日追加文章については3月4日の大会からの規定に追記する

※1 コートとエリア (年長・小学生共通)



- A : 内野エリア (8 m × 8 m)
- B : 外野エリア (内野エリア + 2 m)
- C : 審判エリア (センターラインから 1,5m × 2 m)
- D : コーチングエリア (外野エリア後方 D2 は幼児のみ)

※ライン上は原則コート内とするが最終的には審判員の判断 (指示) とする。